

平成 19(2007)年 8 月～12 月 **長期漁況海況予報** 平成 19(2007)年 8 月発行



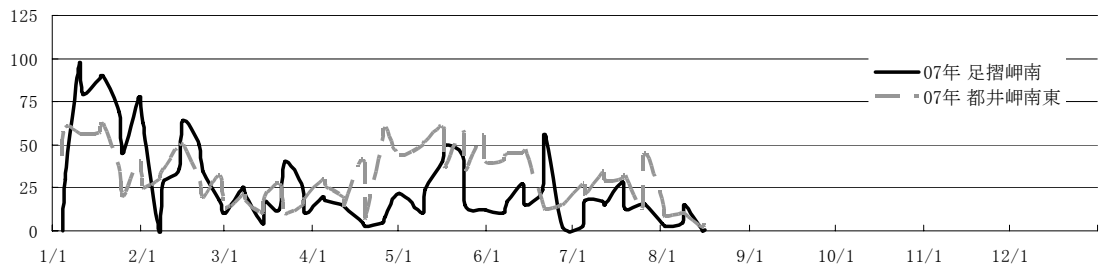
大分県農林水産研究センター水産試験場 879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦 194-6

Phone0972-32-2155 Fax.0972-32-2156 <http://www.mfs.pref.oita.jp>

海況経過<平成 19 年 4～7 月>

■黒潮

4 月下旬、都井岬南東沖に小蛇行が形成され、5 月中旬に足摺岬沖を通過しました。5 月下旬、都井岬南東沖に出現した小蛇行は、6 月中旬に足摺岬沖を通過しました。5 月上旬と 6 月上旬、豊後水道外域で左旋環流の暖水波及が見られました。8 月中旬現在、黒潮は都井岬沖～足摺岬沖で「接岸」しています。



足摺岬：接岸 0～25 マイル やや離岸 25～45 マイル 都井岬：接岸 0～30 マイル やや離岸 30～50 マイル

図 1 足摺岬南及び都井岬南東方向の黒潮北縁までの距離(南西東海沿岸海況速報より)

■水温

豊後水道の水温(0m、10m、20m、30m、50m及び75m層)は「平年並み」～「きわめて高め」で推移しました。4月は北部で「やや高め」、中部で「きわめて高め」、南部で「高め」でした。5月は北部で「やや高め」、中部と南部で「平年並み」でした。6月は北部で「やや高め」、中部で「平年並み」～「やや高め」、南部で「平年並み」でした。7月は水道全域で「平年並み」でした(表1)。

伊予灘と別府湾の水温(0m、10m、20m、30m 及び50m層)は、全般的に「平年並み」～「高め」で推移しました。伊予灘の4月は「高め」、5月と6月は「やや高め」でした。別府湾の4月は「高め」、5月は「平年並み」、6月は「やや高め」でした(表2)。

■塩分

豊後水道の塩分は、全般的に「平年並み」～「やや高め」で推移しました。4月は北部と中部で「平年並み」、南部で「やや高め」でした。5月と6月は水道全域で「平年並み」でした。7月は北部と中部で「平年並み」、南部で「やや高め」でした。

表1 水温の平年偏差評価（豊後水道2007年）

海域	水深	2007年1月	2007年2月	2007年3月	2007年4月	2007年5月	2007年6月	2007年7月
豊後水道 北部 (大分)	観測日	1/16-17	2/15-16	3/13-14	4/11-12	5/15-16	6/12-13	7/10-11
	0m	+	+	+	+	+	+-	-+
	10m	+	++	+	+	+	+	+-
	20m	+	++	++	+	+	+	+-
	30m	+	++	++	++	+	+	+-
	50m	++	+++	++	++	+	+	+
	75m	++	+++	++	+	+	+-	+-
豊後水道 中部 (大分)	観測日	1/15-16	2/13,15-16	3/12-13	4/10-11	5/14-15	6/11-12	7/9-10
	0m	+-	+	+	++	+-	+-	-
	10m	+	++	++	+++	+-	+-	-+
	20m	+	++	++	+++	+-	+-	-+
	30m	+	++	++	+++	+-	+	-+
	50m	+	++	++	+++	+	+	-+
	75m	+	++	++	+++	+	+	+-
豊後水道 南部 (大分)	観測日	1/15	2/13	3/12	4/10	5/14	6/11	7/9
	0m	+-	++	+	++	+	+-	-+
	10m	+-	++	++	++	+-	+	+-
	20m	+-	++	++	++	+-	++	-+
	30m	+-	++	++	++	+-	+	-+
	50m	+	+++	+++	++	+-	+-	-+
	75m	+	++	++	+	+-	+-	-+

表2 水温の平年偏差評価（伊予灘・別府湾2007年）

海域	水深	2007年1月	2007年2月	2007年3月	2007年4月	2007年5月	2007年6月
伊予灘西部 (大分)	観測日	1/10-11	2/10-11	3/7-8	4/5-6	5/8-9,11	6/4-6
	0m	+	+	++	+-	+	+-
	10m	+	++	+++	+	+	+
	20m	+	++	+++	++	+	+
	30m	+	++	+++	++	++	+
	50m	+	++	+++	++	++	++
別府湾	観測日	1/9-10	2/9-10	3/5,7-8	4/4-5	5/7-8	6/4,8
	0m	+-	+	++	+-	+	+
	10m	+-	+	++	+	+-	+
	20m	+	+	++	++	+-	+
	30m	+	+	+++	++	+-	+

注)+++ : きわめて高め ++ : 高め + : やや高め +- : (高めの) 平年並
 -+ : (低めの) 平年並 - : やや低め -- : 低め --- : きわめて低め

今後の海況の見通し＜平成19年8～12月＞

■黒潮

日本南岸の黒潮は、非大蛇行流路で推移するでしょう。九州南東沖(都井岬～足摺岬沖)の黒潮は期間を通して接岸傾向で推移するでしょう。黒潮の離接岸変動に伴って、沿岸域へ一時的に暖水が波及することがあるでしょう。

■沿岸水温

「平年並み」～「高め」で推移するでしょう。

■予測の根拠

- ・中央水産研究所及び関係府県：平成19年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報会議資料(2007)
- ・福岡管区气象台「九州北部地方3か月予報」

■マイワシ

2007年4～7月の漁況経過

県南まき網における2007年4～6月の漁獲量は124トンで、前年比2367%、1986～2006年までの比(以下「平年比」という)2%と、1980年代の高水準期には及ばないものの、過去5年の水準を上回るまとまった漁獲となりました。漁獲の主体は、被鱗体長10～14cmの0歳魚(2007年級群)で、5月中旬以降佐伯湾内および豊後水道南部沿岸においてカタクチイワシ、ウルメイワシとともに混獲されていました。7月以降も0歳魚の混獲は継続しています。

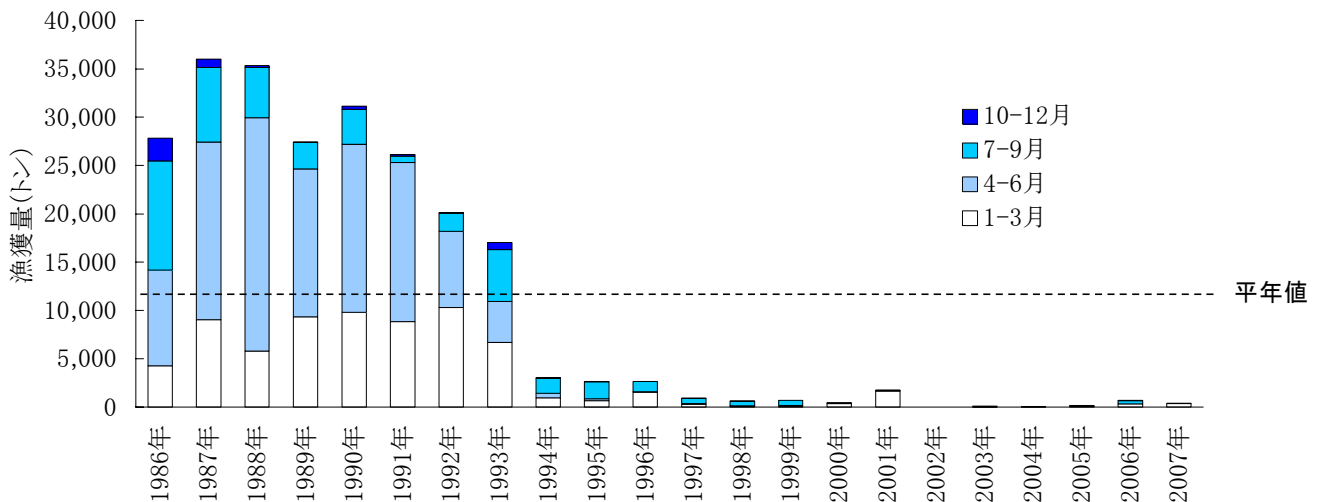


図2 マイワシのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成19年8～12月>

来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は依然として低水準ですが、前年を上回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

被鱗体長12～18cmの0歳魚(2007年級群)が主体で、1歳魚(2006年級群)は混じる程度でしょう。

【説明】

近年の調査結果によれば、8～12月の漁獲主体は0歳魚であり、1歳魚(2006年級群)は散発的に漁獲される程度と考えられます。6月以降佐伯湾内および豊後水道南部沿岸のまき網で0歳魚(2007年級群)が前年をやや上回る水準で混獲されていることから、0歳魚(幼魚)の資源水準は近年の中ではやや高いと考えられます。しかしながら、1980年代と比べるとその資源水準は依然として低く、豊漁は期待できません。以上のことから判断して、来遊水準は低水準ではありますが前年を上回る程度と考えられます。

■カタクチイワシ(成魚)

2007年4～7月の漁況経過

県南まき網における2007年4～6月の漁獲量は383トンで、前年比93%、平年比62%と、前年並みで平年を下回る漁となりました。1～4月まではほとんど漁獲されていませんでしたが、5月以降佐伯湾内および豊後水道南部沿岸においてウルメイワシ、マイワシとともに漁獲され始めました。漁獲の主体は、被鱗体長8～12cm前後の1歳魚(2006年級群)でした。7月の漁獲量は575トンで前年比120%、平年比116%と、前年・平年を上回る漁となりました。

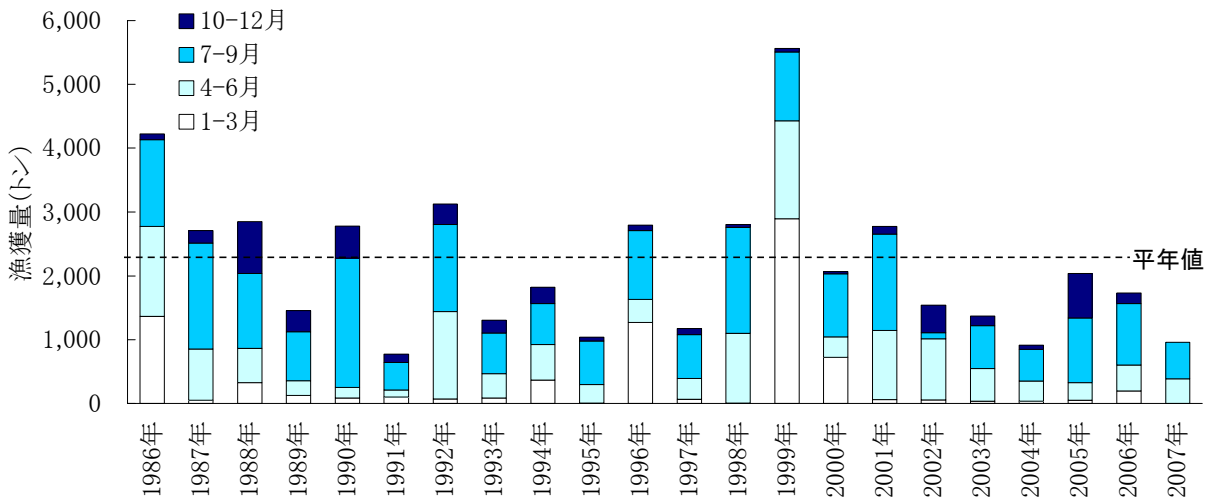


図3 カタクチイワシのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成19年8～12月>

来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は前年並みか前年を上回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

8～9月は0歳魚(2007年級群)と1歳魚(2006年級群)が混じり、10～12月は被鱗体長4～9cmの0歳魚(2007年級群)が主体となるでしょう。

【説明】

過去の調査によれば8～9月は0歳魚と1歳魚が混じって多獲され、盛漁期を過ぎた10～12月には0歳魚が漁獲の主体となる傾向にあります。漁況経過からみて、1歳魚(2006年級群)の水準は近年では比較的高水準であった前年1歳魚(2005年級群)を下回ると考えられます。また漁期を通して漁獲主体となる2007年級群(0歳魚:幼魚)の来遊水準は春シラス漁が前年を上回ったことから、前年(2006年級群)を上回ると考えられます。以上のことから判断して、来遊水準は前年並みか前年を上回る程度と考えられます。

■カタクチイワシ(シラス)

2007年4～7月の漁況経過

佐伯湾船曳網における2007年4～6月のシラス推定漁獲量は70.2トンで、前年比117%、平年比76%と、前年をやや上回り、平年を下回る漁となりました(シラスの平年比は1991～2006年の同期平均値との比)。

別府湾船曳網における2007年4～6月のシラス推定漁獲量は431トンで、前年比21090%、平年比147%と不漁であった前年を大きく上回り、平年を上回る漁となりました。

推計方法: 豊後水道の漁獲量 = 製品(ちりめん)重量 × 2.380

別府湾の漁獲量 = 製品(チリメン)重量 × 2.514

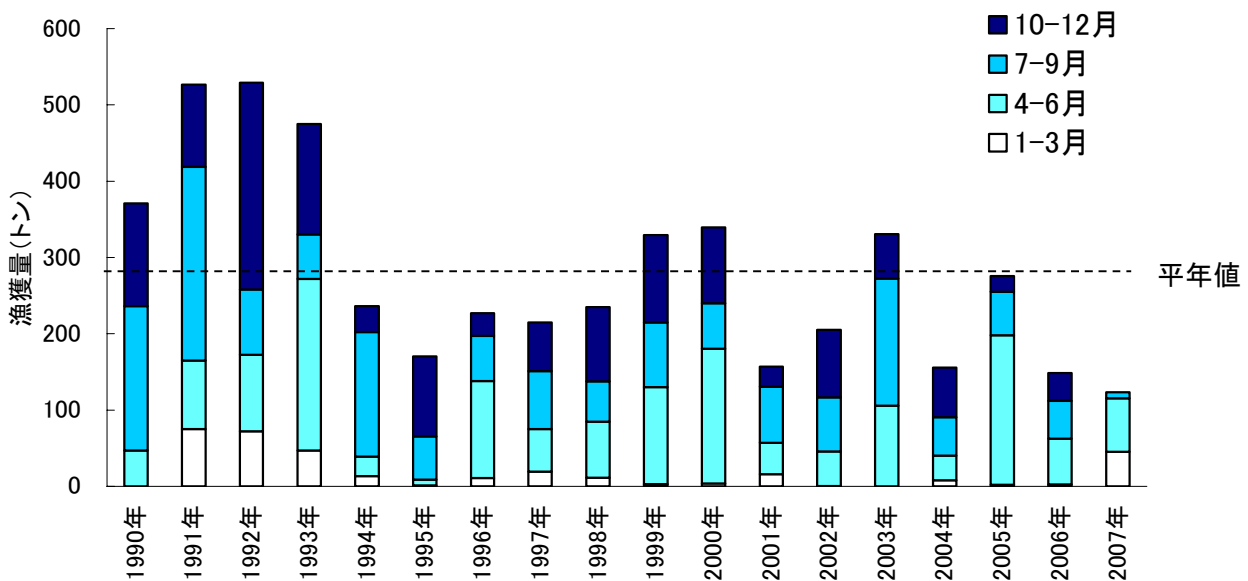


図4 船びき網によるシラスの推定漁獲量 (佐伯湾海域)

今後の見通し<平成19年8～12月>

来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は不漁であった前年を上回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

カタクチイワシの0歳魚(2007年級群)が漁獲の主体となるでしょう。

【説明】

漁況経過からみると、カタクチイワシ1歳魚(2006年級群)は低調な漁獲が継続しており親魚の資源水準は高くなく、大規模な産卵は望めません。また、8～12月の佐伯湾シラス漁獲量は前年のシラス漁獲量と比較的高い相関($r=0.62$)があり、これから推定すると約96トン(前年比140%、平年比68%)の漁獲となります。以上のことから判断して、来遊水準は不漁であった前年を上回る程度と考えられます。

■ウルメイワシ

2007年1～7月の漁況経過

県南まき網における2007年1～6月の漁獲量は478トンで、前年比100%、平年比126%と、好調であった前年並みで平年を上回る漁となりました。このうち1～3月の漁獲量は93トン(前年比21%、平年比45%)で、漁獲の主体は1月に豊後水道南部でマイワシとともに漁獲された被鱗体長20cm前後の1歳魚(2006年級群)でした。4～6月の漁獲量は371トン(前年比1486%、平年比219%)で、漁獲の大半は4月8～10日にかけて豊後水道南部で一時的に漁獲された大羽銘柄(2006年級群と推定)でした。5月以降は佐伯湾内および豊後水道南部沿岸において被鱗体長8～9cm前後の0歳魚(2007年級群)がカタクチイワシ、マイワシとともに漁獲されています。

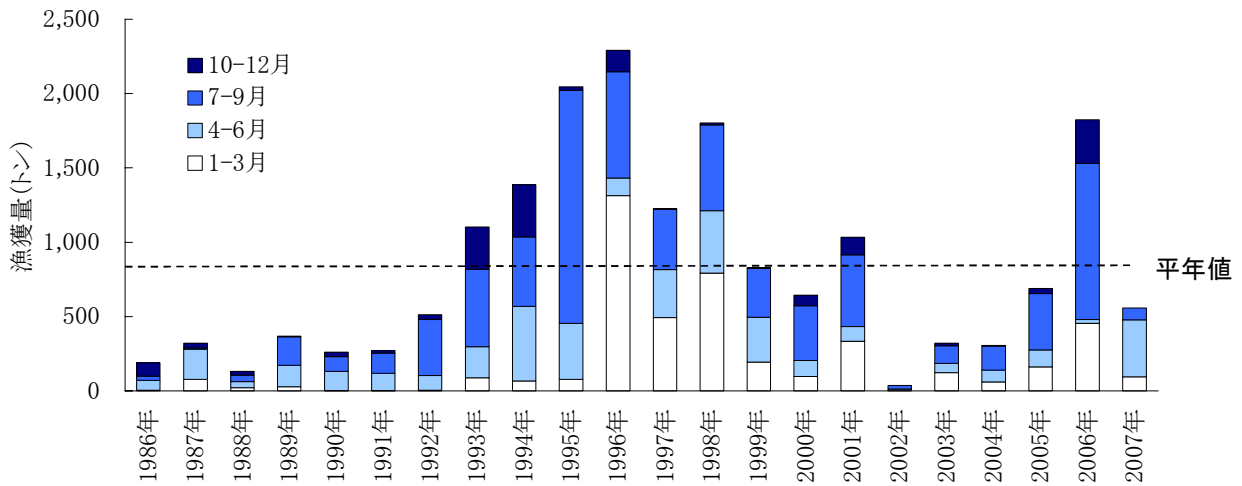


図5 ウルメイワシのまき網漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成19年8～12月>

来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は豊漁となった前年並みか前年を上回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

被鱗体長7～17cmの0歳魚(2007年級群)が漁獲の主体となるでしょう。被鱗体長20cm前後の1歳魚(2006年級群)は散発的に漁獲される程度でしょう。

【説明】

過去の調査結果によれば8月～12月は0歳魚が主な漁獲対象になっています。漁獲の主体となる0歳魚(2007年級群:幼魚)は高水準であった前年(2006年級群)と同程度の水準で漁獲されています。また、例年期間中に1歳魚が漁獲されることは希ですが、1歳魚(2006年級群)の水準は前年(2005年級群)よりも高い状況にあります。以上のことから判断して、来遊水準は豊漁であった前年並みか前年を上回る程度と考えられます。

■マアジ

2007年1～7月の漁況経過

県南まき網における2007年1～6月の漁獲量は339トンで、前年比36%、平年比25%と前年・平年を大きく下回りました。1月に豊後水道中部～南部でまとまった漁獲があった以外は、期間を通して不漁が継続しました。

漁獲の対象は1月～3月が尾叉長15～18cmの1歳魚(2006年級群)が主体で、4月～5月は尾叉長18～19cm前後の1歳魚(2006年級群)主体に、尾叉長6～8cm前後の0歳魚(2007年級群)が混獲されていました。6月以降は佐伯湾、豊後水道中部～南部沿岸において尾叉長8～9cmの0歳魚(2007年級群)がイワン類に混獲される状況が続いており、1歳魚(2006年級群)は漁獲されなくなりました。0歳魚(2007年級群)の加入状況は昨年に引き続き、低調です。

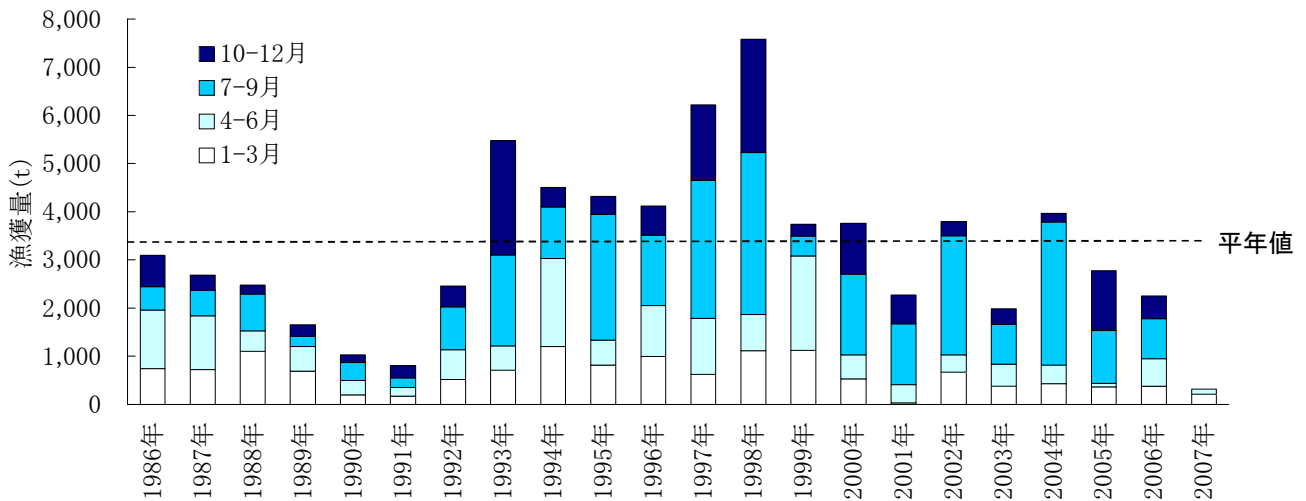


図6 マアジのまき網漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成19年8～12月>

来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は不漁であった前年並みか前年を下回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

尾叉長8～18cmの0歳魚(2007年級群)が漁獲の主体で、1歳魚以上は混じる程度でしょう。

【説明】

過去の調査結果によれば8月～12月は0歳魚が主に漁獲され、1歳魚以上は散発的に漁獲される傾向にあります。漁況経過からみると、漁獲の主体となる0歳魚(2007年級群:幼魚)の漁獲状況は低調であった前年(2006年級群)を下回っており、豊漁は期待できません。また、8～12月のマアジ漁獲量は前々年0歳魚の推定資源尾数と比較的高い相関($r=0.60$)があり、これから推定すると約1,014トン(前年比104%、平年比62%)の漁獲となります。以上のことから判断して、来遊水準は不漁であった前年並みか前年を下回る程度と考えられます。

■サバ類

2007年4～7月の漁況経過

県南まき網における2006年4～6月の漁獲量は4トンで、前年・平年比の1%以下と期間を通して不漁が継続しました。期間中の漁獲の主体は5月9日に豊後水道で単発的に漁獲されたゴマサバ小銘柄のみでした。例年6月以降に多獲される1歳魚(2006年級群)と2歳魚(2005年級群)は7月上旬現在、殆ど漁獲されていません。また、6月以降佐伯湾内で尾叉長15cm前後のサバ類0歳魚(2007年級群)が極少数イワシ類に混獲されていますが、種組成はゴマサバ主体です。

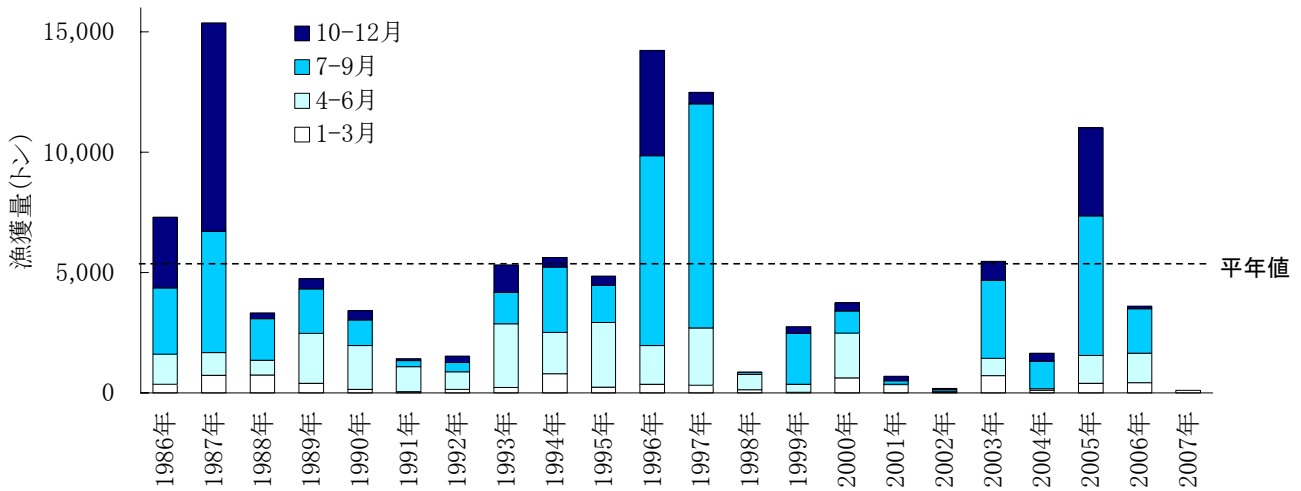


図7 マサバ・ゴマサバのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通しく平成19年8～12月

来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は前年を下回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

ゴマサバ1歳魚(2006年級群)と2歳魚(2005年級群)が主体でしょう(尾叉長25～34cm)。10月以降尾叉長20～25cmのマサバ0歳魚(2007年級群)が混獲されるでしょう。

【説明】

近年の調査によれば8月～9月にゴマサバ1歳魚と2歳魚が多獲され、10月以降にマサバ0歳魚がゴマサバに混獲される傾向にあります。期間中にゴマサバ3歳魚(尾叉長34cm以上)が多獲された事例は近年になく、卓越年級群である3歳魚(2004年級群)の漁獲は見込めません。一方、漁獲の主体となる1歳魚(2006年級群)と2歳魚(2005年級群)は現在までほとんど漁獲されておらず、資源水準は低いと判断されるため、高水準の来遊は見込めません。以上のことから判断して、来遊量は2歳魚(2004年級群)が多獲された前年を下回ると考えられます。

その他

■ 予測の根拠

中央水産研究所及び関係府県：平成19年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報会議資料(2007)

■ 用語解説

年級群：ある年生まれの同種の個体群。2007年級群＝2007年生まれの個体群。

卓越年級群：漁獲対象資源へ成長するまでに生き残った個体数が他の年に比べて特別に多い年の年級群。

被鱗体長：体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。

尾叉長：体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央(くびれている部分)までの直線距離。

■ 問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究センター水産試験場 栽培資源担当まで

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

電話:0972-32-2155

FAX:0972-32-2156